

六郷満山文化・世界農業遺産で“つながる”未来プロジェクト

大分県国東市（2024年度選定）

（様式2-1）

1. 地域の特徴と課題及び目標	1300年の歴史を有する六郷満山文化、先人の知恵が生み出した世界農業遺産など循環型の地域資源を活用しながら、本市が抱える人口減少などの社会課題、産業衰退などの経済課題、地球温暖化などの環境課題の解決のため、多様なステークホルダーが連携・協力して、「持続可能な次の100年」を描ける国東市を創る。	2. 関連するゴール	
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	・国東地域独自の伝統・文化の継承 ・国東地域独自の伝統・文化・資源を活用した産業の振興 ・国東地域のカーボンネガティブの達成		

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組
<p>・先進的エネルギーの普及・拡大・地域内循環 現在取り組んでいる廃食油を再資源化した高純度バイオディーゼル燃料を、国東市内で活用できる仕組みを創る。まずは、高純度バイオディーゼル燃料を産業活動や伝統行事で使用される機械へ活用することを目指す。</p>  <p>光合成 → 植物 → 加工 → バイオ燃料 → 利用 → 燃焼 → 排出 → CO2固定 → 二酸化炭素 → カarbonニュートラル</p>
5. 取組推進の工夫
小学校の総合的な学習の時間を活用し、4年生を対象としたSDGs環境授業を実施。また、学校だよりを通じて廃食油回収の周知とお願い、市内義務教育校への廃食油回収スポット整備等、地域に寄り添った普及啓発を進めている。

6. 取組成果
特に注力する先導的取り組みにおけるKPI達成状況 指標：観光入込客数 2023年3月：768,000人 2024年3月：717,670人 2026年：1,000,000人 指標：活性化協議会及び支え合う地域組織参加者数 2023年3月：651人 2024年3月：810人 2026年：900人 指標：家庭の廃油回収量 2023年3月：460ℓ 2024年3月：4,384ℓ 2026年：4,920ℓ
7. 今後の展開策
インバウンド対策を強化する。 協議会組織が結成できていない地区の組織化をはかる。 廃食油の回収先として新しく民間企業へ協力依頼を予定。

8. 他地域への展開状況 （普及効果）	メディア及びホームページによる周知を行っている。
----------------------------	--------------------------

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度選定

大分県国東市

2025年8月

SDGs未来都市計画名

特に注力する先導的取組

国東市 SDGs 未来都市計画

六郷満山文化・世界農業遺産で“つながる”未来プロジェクト

六郷満山文化・世界農業遺産で“つながる”未来 プロジェクト

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

国東市 SDGs未来都市計画 六郷満山文化・世界農業遺産で“つながる”未来プロジェクト

(2) 2030年のあるべき姿

第3次国東市総合計画（以下、「総合計画」とする。）は目標年度を2030年度とし、まちの将来像実現に向けた重点プロジェクト、総合戦略プロジェクト、前期基本計画（2026年度まで）を示し、各施策においてSDGsの目標を位置付けていることから、総合計画に掲げたまちの将来像を本市の2030年のあるべき姿とする。

【まちの将来像】未来へ、そして宇宙につながる悠久の里 国東

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2024年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	観光入込客数【8.9】	2022年 769,000 人	2024年 717,670 人	2030年 1,000,000 人	-22%
2	企業誘致・立地件数 （増設含む）【8.3】	2022年 12 件	2024年 22 件	2030年 56 件	23%
3	農業、林業、水産業の新規就業者 数【2.3, 8.3】	2022年 3 人	2024年 14 人	2030年 24 人	52%
4	市内企業への就職者数【8.5】	2022年 12 人	2024年 25 人	2030年 24 人	108%
5	移住世帯数 【10.7, 11.3】	2022年 105 世帯	2024年 211 世帯	2030年 800 世帯	15%
6	ホームページアクセス数【4.7】	2022年 71,336 件	2024年 63,390 件	2030年 46,500 件	32%
7	活性化協議会及び支え合う地域 組織参加者数【17.17】	2022年 651 人	2024年 810 人	2030年 900 人	64%
8	温室効果ガス排出量【7.2, 13.2】	2020年 201 千t-CO2	2024年 データなし 千t-CO2 2024年度の算定に必要なデータがまだ出ていないため	2030年 122 千t-CO2	-
9	森林保全面積【13.2, 15.3】	2022年 52 ha	2024年 25 ha	2030年 50 ha以上	50%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

<p>●指標1：「観光入込客数」 ・燃料費高騰等により、県外からのバスツアーが減少した。また、外国人旅行者が取り込めていない。商談会への参加等、インバウンド対策を強化することで改善を図る。</p> <p>●指標2：「企業誘致・立地件数」 ・製造業の国内回帰により、設備投資が増加。2022～2030年の累計目標56件に向け、順調に推移。</p> <p>●指標3：「農業、林業、水産業の新規就業」 ・親元就農、既存施設の活用等、比較的初期投資の低い就農支援が効果的だった。</p> <p>●指標4：「市内企業の就業者数」 ・企業合同就職説明会を、一般向け、高校生向けに実施。</p> <p>●指標5：「移住世帯数」 ・移住支援制度の整理や子育て支援策の拡充など、各種支援メニューの充実を図った。2022～2030年の累計目標800世帯に向け、順調に推移。</p> <p>●指標6：「ホームページアクセス数」 ・市報からのQRコード誘導や、SNS等による情報発信を強化した。</p> <p>●指標7：「活性化協議会及び支え合う地域組織参加者数」 ・新たに活動団体が1地区加わり、参加者数が増加した。</p> <p>●指標9：「森林保全面積」 森林譲与税を活用し、林道の整備や・森林調査（システム更新）を行った。森林組合等と連携して、森林保全面積の増加をはかる。</p> <p>●行政内部の推進体制 ・全体計画やモデル事業の推進、職員啓発、実施状況の点検・評価を行っている。</p> <p>●情報発信・普及啓発 ・廃油回収の促進。（企業、学校と連携）</p> <p>●ステークホルダーとの連携 ・広域ごみ処理施設が本年度より運用開始予定。</p> <p>●地方創生・地域活性化への貢献 小中学生を対象にSDGs環境授業を実施</p>

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
1	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	観光入込客数	2022年 769,000 人	2024年 717,670 人	2026年 960,000 人	-27%
2	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	新規就農者数	2021年 8 人	2024年 14 人	2026年 40 人	19%
3	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	日本型直接支払（多面的機能支払・中山間地域等直接支払・環境保全型農業直接支払の総称）の取組面積	2021年 1,880 ha	2024年 2,364 ha	2026年 1,930 ha	968%
4	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	森林保全面積	2021年 0.69 ha	2024年 25 ha	2026年 20 ha	126%
5	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	漁業収入	2021年 2,689 千円	2024年 4,404 千円	2026年 2,958 千円	638%
6	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	企業誘致・立地件数（増設含む）	2022年 4 件	2024年 37 件	2026年 7 件	1100%
7	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	創業件数	2021年 3 件	2024年 10 件	2026年 5 件	350%
8	やりがいを感じ、安心して働けるまちにむけた取組	市内企業への就職数	2022年 7 人	2024年 24 人	2026年 20 人	131%

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

No	取組名	指標名	当初値	2024年 実績	2026年 目標値	達成度 (%)
9	何度も訪れたい、住みたいと思えるまちに向けた取組	将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合	2021年 78.1 %	2024年 70 %	2026年 100 %	-36%
10	何度も訪れたい、住みたいと思えるまちに向けた取組	中央公民館講座開設数	2021年 143 講座	2024年 128 講座	2026年 143 講座	90%
11	何度も訪れたい、住みたいと思えるまちに向けた取組	1校あたり平日教室・土曜教室年間平均数	2021年 26 回	2024年 33 回	2026年 30 回	185%
12	何度も訪れたい、住みたいと思えるまちに向けた取組	空き家バンク新規登録物件数	2021年 50 件	2024年 43 件	2026年 50 件	86%
13	何度も訪れたい、住みたいと思えるまちに向けた取組	ホームページアクセス数	2022年 71,336 件	2024年 63,390 件	2026年 44,500 件	30%
14	何度も訪れたい、住みたいと思えるまちに向けた取組	新たな広報ツール（SNS）のフォロワー数	2021年 950 人	2024年 2,171 人	2026年 1,350 人	305%
15	何度も訪れたい、住みたいと思えるまちに向けた取組	活性化協議会及び支え合う地域組織参加者数	2022年 651 人	2024年 810 人	2026年 850 人	80%
16	カーボンネガティブ実現が見通せるまちに向けた取組	家庭系ごみ排出量	2021年 5,659 t	2024年 5,162 t	2026年 4,712 t	52%

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

No	取組名	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
17	カーボンネガティブ実現が見通せるまちに向けた取組	エコサポーター登録者数（累計）	2021年 250人	2024年 309人	2026年 330人	74%
18	カーボンネガティブ実現が見通せるまちに向けた取組	リサイクル率	2021年 18.99%	2024年 18.73%	2026年 20.0%	-26%
19	カーボンネガティブ実現が見通せるまちに向けた取組	家庭の廃油回収量	2022年 460ℓ	2024年 4,384ℓ	2026年 4,050ℓ	109%
20	カーボンネガティブ実現が見通せるまちに向けた取組	温室効果ガス排出量	2020年 201千t-CO2	2024年 データなし 千t-CO2	2026年 154千t-CO2	-

2024年度の算定に必要なデータがまだ出ていないため

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

【国東版SDGsサポーター】認証制度の新設

SDGsの取組を実施している市民・団体・企業について市のSDGs認証をすることにより、3者で情報の共有を行い横断的な取り組みが期待でき、相乗効果もたらされる。SDGsサポーター認証後は、市のSDGs未来都市事務局（仮称）より、定期的にメールマガジン等で情報共有・周知した上で、市のSDGs推進本部でイベント等を共有し、全庁でSDGs普及啓発等、各種活動に対する支援を検討する。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標1：観光入込客数

・燃料費高騰等により、県外からのバスツアーが減少した。インバウンド対策を強化する。

●指標2：新規就農者数

・目標値は累計であるが、現在のペースであると目標達成が難しい。親元就農、既存施設の活用等、比較的初期投資の低い就農支援に取り組む。

●指標9：将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合

・各校でキャリア教育を行っているものの、数値が下がった。より児童生徒の興味を引くような内容を検討する

●指標18：リサイクル率

・達成度が25%未満となった要因としては、可燃ごみ中の紙・プラスチック等リサイクルに行かないものの割合が増加した。対応策としては、ケミカルリサイクルの推進を行っている。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

（4）有識者からの取組に対する評価

・県外からのバスツアーが減少した、とのことだが、旅行の現状としては、従来のバスツアー（インバウンドもバスツアーを想定されているようだが）だけでなく、個人旅行者や、ノマドワーカーの受け入れなど、これまでのツアー旅行の常識にとられない旅行者・滞在者が増えている傾向があるため、それらへの対応も考えられるとよい。

・指標2, 3, 5の増加は、地域活性化に大きく寄与するものであり、今後も継続して成果が出るように取り組んで欲しい。

・指標9は、地域で大きな面積を持つ森林の保全に必要な事業であることから、継続して着実に進めて欲しい。

・全体的には、自治体を中心になる事業でなく、経済界が中心となるKPI設定であることから、関係団体と連携と調整を図り、しっかりと支援をする体制を整えることが重要である。

・バイオディーゼルの利用については、2022年に0リットルの実績のものを、2026年に1750リットルに増やすために、バイオディーゼル利用の発電機の貸出しや購入補助を行われるようであるが、いきなり大きな普及を見込まなくても、まずは、実証試験レベルで良いので、確実に実績を出されるとよい。

・高純度バイオディーゼル燃料の普及は、急には進まない。さらに日本国内の新エネルギーは水素など多岐にわたることから、この手法が効果的であるのかを長期視点で考察しながら進める必要がある。

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

(1) モデル事業又は取組名

六郷満山文化・世界農業遺産で“つながる”未来プロジェクト

(2) モデル事業又は取組の概要

- ・ 国東地域独自の伝統・文化の継承
- ・ 国東地域独自の伝統・文化・資源を活用した産業の振興
- ・ 国東地域のカーボンネガティブの達成

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
①-1 六郷満山文化や世界農業遺産などの地域資源を活かした観光の振興 ①-2 世界農業遺産の保全と継承	①-1 アドベンチャーツーリズムの実施（国東半島峯道ロングトレイル） ①-2 世界農業遺産イベントの実施（ため池ウォーク）	観光入込客数	2022年 769,000 人	2024年 717,670 人	2026年 1,000,000 人	-22%
②-1 持続可能な地域コミュニティの自律的運営 ①-2 国東市だからこそ実現できる暮らしづくり	②-1 地域支え合い活動の実施。RMO（地域運営組織）の検討。 ②-2 移住支援金等、移住定住策の実施。国東半島芸術祭の検討。	活性化協議会及び支え合う地域組織参加者数	2022年 651 人	2024年 810 人	2026年 900 人	64%
③-1 先進的エネルギーの普及・拡大・地域内循環 ③-2 森林資源の保全と持続可能な利用	③-1 市報で実績周知を行った。また、企業ごとに実績通知をした。 ③-2 森林環境贈与税を活用し、補助金による国東産材活用の推進等を実施。	家庭の廃油回収量	2022年 460 ℓ	2024年 4,384 ℓ	2026年 4,920 ℓ	88%

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標1：「観光入込客数」
 - ・燃料費高騰等により、県外からのバスツアーが減少した。また、外国人旅行者が取り込めていない。商談会への参加等、インバウンド対策を強化することで改善を図る。
- 指標2：「活性化協議会及び支え合う地域組織参加者数」
 - ・新たに活動団体が1地区加わり、参加者数が増加した。
- 指標3：「家庭の廃油回収量」
 - ・回収拠点も増加し、市民への周知も進んだ。
 - 学校給食の廃食油回収等、今後も増加見込み。

2. 自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

六郷満山文化・世界農業遺産で“つながる”未来プロジェクト

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

- ・国東地域独自の伝統・文化の継承
- ・国東地域独自の伝統・文化・資源を活用した産業の振興
- ・国東地域のカーボンネガティブの達成

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
高純度バイオディーゼル燃料を伝統行事・祭りや市内の産業活動に使用することにより、先進的エネルギーへの需要が高まり、二酸化炭素の排出がない、または排出が極めて少ない再生可能エネルギーの生産量が多くなる。	伝統行事や祭りなどによって、観光産業が振興され、市内における雇用の創出・拡大につながる。また、本市への定住及び移住が促進されるため、本市の人口の増加にもつながる。	伝統行事や祭り、産業活動（工事中機械等）の燃料として高純度バイオディーゼル燃料が普及することにより、地域内での消費量が増えることから、その原材料である廃食油の需要の拡大と回収の必要性が高まる。

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
1	温室効果ガスの排出量	2020年 201 千t-CO2	2024年 データなし 千t-CO2 2024年度の算定に必要なデータがまだ出ていないため	2026年 154 千t-CO2	-
2	行事・祭り・工事等へ供給したバイオディーゼル燃料量	2022年 0 ℓ	2024年 データなし ℓ 2024年度は未実施	2026年 1,750 ℓ	-
3	市内企業への就職者数	2022年 12 人	2024年 24 人	2026年 20 人	150%
4	移住世帯数	2021年 79 世帯	2024年 106 世帯	2026年 100 世帯	129%
5	くにさきエコサポーターの登録数	2022年 248 人	2024年 309 人	2026年 330 人	74%
6	地域や学校における出前講座数	2022年 4 回	2024年 5 回	2026年 8 回	25%

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

高純度バイオディーゼル燃料の普及を持続可能なものにするため、高純度バイオディーゼル燃料を使用する際の発電機の貸し出しについては、軽油を使用する際の発電機と燃料料金の合計以下の料金とするためにも発電機の購入補助を行い、再度購入するまでに利益の積み立てを行い設備更新することにより将来的な自走に向けたSDGs普及と合わせ市民・団体・企業的好循環な取組を実施する。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標5：「くにさきエコサポーターの登録数」

すでに2026年度達成目標直前であり、SDGsの周知と、市民の環境意識向上が大きいとみられる。今後、高純度バイオディーゼル燃料の普及促進や廃食油の回収促進により、さらなる意識向上が期待できる。